



平和資料館

草の家

No.98

2008年4月14日発行



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail: GRH@ma1.seikyoku.ne.jp <http://ha1.seikyoku.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori>

2008 ピースウェイブを成功させよう

今から30年前、1979年に市民図書館で「高知空襲展」を初めて行った時、大変大きな反響を呼びました。戦後34年、高知大空襲を知らない人が増え、戦争体験が風化するなかで行われたこの「高知空襲展」は高知市民に衝撃を与えました。私は自分自身の空襲体験と重なって身震いしたことをはっきりと覚えています。

この空襲展は以後毎年行われ、市民、県民から戦争中のいろいろな貴重な物品の提出がたくさんありました。これを展示する常設施設が欲しいという運動が始まり県民に広がりました。高知県、高知市などに働きかけ行政に常設館を創らせようとはしましたが、うまくいきませんでした。初めての空襲展から10年たった1989年、この運動の中心にいた西森茂夫さん夫妻が私財を投じてたくさんのカンパも頂いて民立民営の「平和資料館・草の家」を創立しました。

高知市を舞台にたくさんの平和行事が行われていますが、夏に集中しています。そこで各団体が連帯して協力し合い全部を盛り上げ成功させようと「平和の波」ピースウェイブが始まりました。その中心に「平和資料館・草の家」があります。高知空襲展は今年第30回を迎えます。「第30回戦争と平和を考える資料展」と言っていますがメインは高知大空襲展です。これは草の家が責任をもってやります。第26回平和七夕まつり、第25回反核平和コンサート、第25回平和美術展、第14回アジアの人々が連帯する集い等10をこえる行事をやります。広島、長崎の原爆、沖縄の地上戦や集団自決などの被害体験を高知空襲でより身近に感じて欲しい。また、日本がアジア、太平洋諸国の人々に耐え難い戦争の惨禍を加えたことも忘れてはなりません。

戦争の歴史や暴力の実態を知るとはとても大切なことですが、その知識を深く胸の内にしまっておいては、戦争や暴力を生み出す現実社会を変えることはできません。戦争はいかん、平和は大切だと思ったら「自分に何ができるか」を考えて欲しい。「地球規模で考えて、地域から行動する」という実践活動でピースウェイブに参加しよう。2008 ピースウェイブを成功させよう。

館長 岡村正弘

